

知床の樹木

エゾユズリハ

知床に生育する数少ない常緑広葉樹のなかに、エゾユズリハがあります。他の常緑広葉樹のほとんどが、ガンコウランやコケモモなどのいわゆる高山植物であるのに対し、エゾユズリハは本州の低地でも見ることができます。成長しても高さは1.5メートルほどと高くありませんが、楕円形で常緑樹特有の光沢をもつ厚い葉は、北国の森林では少し目立つ存在です。本来、エゾユズリハは雪の多い日本海沿岸に多く生育しますが、知床半島では知床自然観察教育林内をはじめ、いくつかの群落を目にすることができます。オホーツク海沿岸で群落となって生育しているのは極めて珍しく、エゾユズリハは知床の植生を特徴づける種の一つであるといえることができます。



葉は楕円形。長さ8～14cmで全縁です。



夏にはこんな丸い実をつけます。

■エゾユズリハ豆知識■

ユズリハの名前は、「成長した子供にあとを譲る」という意味に由来しています。エゾユズリハの葉は、新芽が出てくると落葉せずに下を向き、新しい葉が成長するのを見守ってから落葉します。このように新旧の交代が極めてはっきりしている特徴から、エゾユズリハを含むユズリハは、新しい年を迎える正月の飾りとして利用されています。

ゴミは持ち帰りましょう！

8月1日、日観協主催のクリーンキャンペーンが開催され、当センターも参加し、道の駅うとろ・シリエトクと知床峠でごみの持ち帰りを呼びかけました。周辺で行った清掃活動では、人が多く集まる場所にはありますが目立ったゴミも少なく、観光客も気持ちよく知床を楽しんでいるようでした。知床の美しさを永遠に守っていくために、これからもゴミはポイ捨てせずに持ち帰りましょう！

9月～11月のイベントのお知らせ

日にち(曜日)	イベント名	締切日
9月9日(日)	知床の森を木の「お医者さん」と一緒に歩いてみよう！	8/29
9月30日(日)	しれとこ産業まつり(丸太切り等ブース出店)	
10月14日(日)	知床の大木に登って野鳥の気分を体験しよう	10/3
11月3日(土)	森の恵みで草木染め	11/1
11月18日(日)	森の恵みを使ってクリスマスリース作り	11/16

印が付いているイベントは北見市からの往復バスを運行します。その他は現地集合・解散です。詳しくは知床森林センターHP (<http://www.shiretoko.go.jp/>) か電話でご確認下さい。

人事異動

転入 館 泰紀 : 所長(北海道森林管理局計画部指導普及課より)
 (9月1日付) 転出 谷本 哲朗 : 農林水産省農村振興局農村政策課へ(森林センター所長より)
 佐久間祐子 : 網走中部森林管理署治山課へ(森林センター緑化第1係より)



この広報誌は道産間伐材を使用しています。

知床の森から



平成19年9月発行 第109号

(写真: 羅臼岳)

北海道森林管理局 知床森林センター
 〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
 電話 0152-23-3009 FAX 0152-23-3160
 ホームページ <http://www.shiretoko.go.jp>



知床は今

本州では猛暑が続いていると思いますが、ここ知床でもお盆前後に30℃を超える日があり本州並みの暑さが続きました。しかし、8月も下旬に近づき朝夕の風も涼しくなり、知床の短い夏も過ぎたように感じられます。

先日、ウトロ方面にドライブに行った帰り、遠音別(おんねべつ)川付近に人だかりが出来ており、私も、何かと思い車を止め橋から川を見下ろしてみると、水が真っ黒になっていました。目をこらし、よく見てみるとその黒っぽいもの一つ一つが魚でした。あとから来た観光客の方も最初は良く分からなかったらしく、よく目をこらした後に歓声をあげ驚いていました。



調べてみると、このお盆の時期、遠音別川へ遡上してくるのは、カラフトマスだと分かりました。人間もお盆になれば生まれ育ったふるさとへ帰省しますが、動物界にも帰ってくるのがあるのだと感心しました。

カラフトマスは、産卵を行うため8月から9月頃に生まれた知床の川へ帰ってきます。その卵は翌年の4月から5月頃にふ化し大海原に旅に出ます。約2年かけて大海を回遊し、体長が30～70cmに達して成魚になり、知床の川へ遡上し産卵を行い短い命を終えます。カラフトマスは、満2年で成熟することから隔年で繁殖集団が別れ、1年おきに漁獲量が増減すると言われ、オホーツク海では西暦の奇数年に豊漁になるそうです。

一方で、このカラフトマスは知床の森林や野生動物を育む重要な生き物でもあります。遡上してきたものはヒグマやシマフクロウ、産卵を終え力尽きたものはキタキツネなどが食べるからです。ヒグマなどは捕まえたカラフトマスを森林の中にもっていきます。それらは全て綺麗に食べられるわけではなく、食べ残されたりもします。その食べ残しなどが陸上の菌類に分解され、土壌などに恵みをもたらします。その分解された栄養分は土壌を通して川へかえり、プランクトンを育て海洋生物の餌になるのです。

カラフトマスの遡上を見ていると「森は海の恋人」という言葉を思い出します。森林は海へ、海は森林へ恵みをもたらし、川はその両方をつなぐパイプ役になるのです。このように、海-川-森林の各生態系にわたるダイナミックな食物連鎖網、海洋生態系と陸上生態系の相互関係が、知床の豊かな生態系、生物の多様性を支えているのだと改めて認識させられました。



第68回森とのふれあい 夏休み企画「森の恵みとふれあう体験教室」

夏真っ盛りの8月9日（木）、夏休み期間中の小学生を対象に、森林にある色々な物とふれあい、楽しむことで、森林への興味・関心を高めてもらうことを目的に「森の恵みとふれあう体験教室」を開催しました。当センターが夏休み中の小学生を対象としたこのようなイベントを開催するのは初の試みです。

イベント内では、自然の石や小枝を使った「木工作」、身近な物が木を原料としている事を知ってもらうため、牛乳パックから作ったパルプを利用した「ハガキ作り」、植物の種の種類や分布拡大の戦略について学ぶ「種模型飛ばし」、樹種によって木の性質が違うことを実感してもらう「丸太切り」の体験教室を実施しました。

当日の午前9時、小雨が降るあいにくの天気でしたが、元気いっぱい小学生23名と親子参加4組の合計27人がセンターに集まりました。

まず4つのコーナーの簡単な紹介等の説明を聞いたあと、各自好きなコーナーへ分かれてきました。



種模型飛ばしコーナーでは、種模型の飛行時間を競い、上位3人は賞品がもらえるとあって、子供達は自分が一番になろうと何度も挑戦していました。上位3人はそれぞれに金・銀・赤に塗られた松ぼっくりと副賞の種模型セットをもらい、大変満足そうでした。



ハガキ作りコーナーでは、緑やピンクに色づけられたパルプに、押し葉や押し花をセンス良く飾り、きれいなハガキを作っていました。



木工作コーナーでは、みんな自由にユニークな発想で作品を作りました。中には時間を忘れ黙々と作品をつくる子供もいました。



丸太切りコーナーでは、重さ当てゲームも行いました。最初はノコギリを使って切ることにも悪戦苦闘していた子供達でしたが、何度も挑戦するうちに上達し、木の特性や切った輪切りの重さ当てのコツをつかんだ子供もいました。

また、森林について学習してもらうため、各コーナーに関連した解説とクイズを設けました。子供達は、『松ぼっくりを植えると芽が出る？』などの難問〇×クイズにも真剣に取り組んでいました。全問正解者にはセンター職員手作りのクラフト作品をプレゼントし、手にした子供達は大変喜んでいました。

参加した小学生は、「いろんなコーナーがあって楽しかった。」「ぼくの木工作うまくできたよ！」「また遊びにきたい」などと大好評。夏休みのいい思い出になったようです。

知床半島での森林づくり活動を考える ～「知床永久の森林づくり協議会」が設立されました～

我が国を代表する森林を有する知床においては、その核心地域の保全とともに、周辺地域に散在する人工林や荒廃地等において、針広混交林化を始めとする多様な森林づくりを推進することが、半島全体の生物多様性を高める上で重要となっています。

一方で、地球温暖化防止に森林が果たす役割への期待や、企業のCSR活動の活発化を受け、市民や団体レベルで森林づくりに関わりたい、というニーズも高まりを見せています。

そのような状況を受け、北海道森林管理局では、遺産区域外も含めた知床半島において、国民参加の森林づくりを促進する観点から、学識経験者や企業関係者、地元自治体や関係団体で構成された「知床永久の森林づくり協議会」を設立し、7月13日（金）に知床森林センター2階会議室において第1回目の会合を開催しました。

この協議会は、知床においてボランティアや企業等多様な主体が参画した森林づくりや、森林環境教育を推進するための仕組みづくりなどについて検討する目的で設置され、平成19年度については計3回開催する予定となっています。

今回の会合においては、出席者から「旅行者と森林づくりの関わり」や「既存の取組との連携」等について意見が出されました。今後も、モデル的な仕組みづくりの検討を通じて、知床ならではの森林づくり活動が展開されるような議論が期待されます。

協議会の資料や議事内容については、後日北海道森林管理局のホームページに掲載する予定となっています。また、この広報でも随時検討状況を報告していきます。

北海道森林管理局HP：

<http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/kyoku/>

※CSR：「Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任」の意味で、この考え方の中で、最近では植林など森林づくりに関わる企業も目立ってきています。



第83・84回レクリエーションin知床 可憐な花を求めて 神秘の羅臼湖に行こう

毎年参加希望者が多い人気の羅臼湖散策。今年は7月19・26日の2回開催し、30～70代の計46名の方が参加しました。

道中バスの中では、海岸から標高738mの知床峠まで一気に駆け上がる森林の垂直分布の観察や、知床峠からは雲海に浮かぶ国後島の姿を楽しみながら羅臼湖へと向かいました。

羅臼湖までの散策路はハイマツ帯のトンネルをくぐったり、植生保護のためにぬかるみを避けずに歩くため歩きづらいところもありましたが、参加者の皆さんは歩道脇に可憐な姿をみせるゴゼンタチバナや、雪田群落に咲くエゾコザクラ・チングルマなどのお花畑、普段なかなか訪れることのできない羅臼湖の美しさに疲れも忘れて歓喜の声をあげていました。



↑三の沼

羅臼湖をバックに記念撮影です！

